

昭和十五年十一月六日會議議案



昭 和 十 五 年 十 一 月 十 三 日	昭 和 十 五 年 十 一 月 六 日
公 布	決 議
勅 令 第 七 六 〇 號	

拓務省官制中改正ノ件

参照添附

勅令第 號

拓務省官制中左ノ通改正ス

第二條中「三局ヲ四局ニ」拓務局「ヲ」拓北局  
拓南局  
ニ改ム

第五條 管理局ニ於テハ他局ノ主管ニ

屬スルモノヲ除クノ外臺灣總督府樺

太廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ掌ル

拓一

第六條第一號中「金融、租稅及專賣」ヲ及金融ニ改ム

第六條ノ二 拓北局ニ於テハ滿洲其ノ

他拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移

植民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條中「拓務局」ヲ「拓南局」ニ改ム

第七條ノ二中「拓務局參與」ヲ「拓南局參與」

ニ、「拓務局」ヲ「拓南局」ニ改ム

第八條中「專任十四人」ヲ「專任十六人」ニ改ム

第九條中「事務官專任十五人」ヲ「事務官專任十七人」ニ改ム

第十條中「技師專任十人」ヲ「技師專任十二人」ニ改ム

第十三條中「專任八十三人」ヲ「專任九十九人」ニ改ム

第十四條中「技手專任二十八人」ヲ「技手專任三十四人」ニ改ム

第十五條中「通譯生專任十二人」ヲ「通譯生專任十人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

○拓務省官制

昭和四年  
勅令第百五十二號

第一條 拓務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ統理シ、東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

拓務大臣ハ涉外事項ニ關スルモノヲ除クノ外、移植民ニ關スル事務並ニ滿洲及支那以外ニ於ケル海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務ヲ管理ス

拓務大臣ハ前項ノ事務ニ付、外務大臣ヲ經由シ、領事官ヲ指揮監督ス

第二條 拓務省ニ左ノ一部及三局四局ヲ置ク

朝鮮部

管理局

殖産局

拓務局

拓北局

拓南局

第五條 管理局ニ於テハ左ノ他局ノ主管ニ屬

スルモノヲ除クノ外臺灣總督府樺太廳及

洋廳ニ關スル事務ヲ掌ル

拓五

一 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外臺

灣總督府樺太廳及南洋廳ニ關スル事務

二 拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移植民

ノ保護指導ニ關スル事務

第六條 殖産局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 臺灣總督府樺太廳及南洋廳ノ産業交通

通信及金融租税及專賣ニ關スル事務

二 東洋拓殖株式會社ノ業務ノ監督ニ關ス

ル事務

三 拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル海外拓

殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務

第六條ノ二 拓北局ニ於テハ滿洲其ノ他拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移植民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 拓務局拓南局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外移植民ニ關スル事務
- 二 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務

第七條ノ二 拓務省ニ拓務局拓南局參與ヲ置

キ拓務局拓南局ノ局務ニ參與セシム

拓務局拓南局參與ハ拓務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第八條 拓務書記官ハ專任十四人十六人ヲ以テ定員トス

第九條 拓務省ニ事務官專任十五人十七人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十條 拓務省ニ技師專任十人十二人ヲ置ク

奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十三條 拓務屬ハ專任八十三人九十九人ヲ以テ定員トス

第十四條 拓務省ニ技手專任二十八人三十四人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十五條 拓務省ニ通譯生專任十二人十人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十六條 第十條及第十四條ノ職員ハ之ヲ外

國ニ駐在セシメ帝國領事館附ヲ命ズルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



参照

拓務省官制中改正勅令案資料

拓

務

省

目次

一	官制案	一
二	理由	三
三	拓務省官制新舊對照	四
四	説明	七
五	昭和十五年度官吏増員内譯	一四
六	昭和十五年度拓務省所管歳出經常部抄	一六
	終	

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ拓務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布  
セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣  
拓務大臣

1 勅令第 號

拓務省官制中左ノ通改正ス

第二條中「三局」ヲ「四局」ニ、「拓務局」ヲ「拓北局」ニ改ム

第五條 管理局ニ於テハ他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條第一號中「金融、租稅及專賣」ヲ「及金融」ニ改ム

第六條ノ二 拓北局ニ於テハ滿洲其ノ他拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移植民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條中「拓務局」ヲ「拓南局」ニ改ム

第七條ノ二中「拓務局參與」ヲ「拓南局參與」ニ、「拓務局」ヲ「拓南局」ニ改ム

第八條中「專任十四人」ヲ「專任十六人」ニ改ム

第九條中「專務官專任十五人」ヲ「專務官專任十七人」ニ改ム

第十條中「技師專任十人」ヲ「技師專任十二人」ニ改ム

第十三條中「專任八十三人」ヲ「專任九十九人」ニ改ム

第十四條中「技師專任二十八人」ヲ「技師專任三十四人」ニ改ム

第十五條中「通譯生專任十二人」ヲ「通譯生專任十人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

滿洲移植民事業ノ飛躍的進展ニ鑑ミ拓北局ヲ新設シテ主トシテ之ガ事務ヲ專管セシムルト共ニ關係職員トシテ局長ノ外書記官二人事務官一人屬十一人技手六人ヲ、拓務局ヲ拓南局ト改稱シ主トシテ南米及南洋ニ對スル移植民及拓殖事業ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトトシ之ガ機構ノ整備充實ヲ期スル爲メ事務官一人技師二人屬五人技手三人ヲ、會計事務ノ増加ニ伴ヒ屬二人ヲ夫々増員シ賞與科目設置ニ伴フ經費節減ノ爲屬二人技手三人通譯生二人ヲ減員スルノ與アルト管理局及殖産局管掌事務ノ一部ヲ他局ニ移管スル等ノ要アルトニ依ル

拓務省官制新舊對照

現行官制	改正官制
<p>第一條 拓務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ統理シ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス</p> <p>拓務大臣ハ涉外事項ニ關スルモノヲ除クノ外移植民ニ關スル事務並ニ滿洲及支那以外ニ於ケル海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務ヲ管理ス</p> <p>拓務大臣ハ前項ノ事務ニ付外務大臣ヲ經由シ領事官ヲ指揮監督ス</p>	<p>第一條 同上</p>
<p>4</p> <p>第二條 拓務省ニ左ノ一部及三局</p>	<p>第二條 拓務省ニ左ノ一部及四局</p>

ヲ置ク  
朝鮮部  
管理局  
殖産局  
拓務局

第三條 朝鮮部ニ於テハ朝鮮總督府ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 朝鮮部ニ部長ヲ置ク拓務次官ヲ以テ之ニ充ツ拓務大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第五條 管理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外臺灣總督府、樺太廳

ヲ置ク  
朝鮮部  
管理局  
殖産局  
拓北局  
拓南局

第三條 同上

第四條 同上

第五條 管理局ニ於テハ他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ニ關スル事務ヲ掌ル

及南洋廳ニ關スル事務

二 拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移植民ノ保護指導ニ關スル事務

第六條 殖産局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ産業、交通、通信、金融、租稅及專賣ニ關スル事務

二 東洋拓殖株式會社ノ業務ノ監督ニ關スル事務

三 拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務

第六條 殖産局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ産業、交通、通信及金融ニ關スル事務

二 東洋拓殖株式會社ノ業務ノ監督ニ關スル事務

三 拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務

第六條ノ二 拓北局ニ於テハ滿洲

第七條 拓務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外移植民ニ關スル事務
- 二 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務

第七條ノ二 拓務省ニ拓務局參與ヲ置キ拓務局ノ局務ニ參與セシム  
 拓務局參與ハ拓務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

其ノ他拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移植民ニ關スル事務ヲ掌ル

- 第七條 拓南局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外移植民ニ關スル事務
- 二 他局ノ主管ニ屬スルモノヲ除クノ外海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル事務

第七條ノ二 拓務省ニ拓南局參與ヲ置キ拓南局ノ局務ニ參與セシム  
 拓南局參與ハ拓務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第八條 拓務書記官ハ專任十四人ヲ以テ定員トス

第九條 拓務省ニ事務官專任十五人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十條 拓務省ニ技師專任十人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十一條 拓務省ニ理事官專任五人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十二條 拓務省ニ通譯官專任二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第十三條 拓務屬ハ專任八十三人

第八條 拓務書記官ハ專任十六人ヲ以テ定員トス

第九條 拓務省ニ事務官專任十七人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十條 拓務省ニ技師專任十二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十一條 同上

第十二條 同上

第十三條 拓務屬ハ專任九十九人

ヲ以テ定員トス

第十四條 拓務省ニ技手專任二十八人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第十五條 拓務省ニ通譯生專任十人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス

第十六條 第十條及第十四條ノ職員ハ之ヲ外國ニ駐在セシメ帝國領事館附ヲ命ズルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年勅令第百七十九號及大正九年勅令第百五十號ハ之ヲ廢止ス

テ以テ定員トス

第十四條 拓務省ニ技手專任三十四人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第十五條 拓務省ニ通譯生專任十人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス

第十六條 同上

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說 明

拓務省ニ於ケル滿洲開拓民ニ關スル諸般ノ專務ハ移民專務ノ範圍ニ屬スル爲昭和十年四月管理局ヨリ拓務局ニ移管セラレ同局ニ於テ移民並ニ南洋諸地方ニ對スル移植民及殖産事業ニ關スル專務ト併ニ兼管スル事トシテ來リタルモ滿洲開拓事業ノ飛躍的進展ニ伴ヒ關係甚密ニ關シテ加フル一面東亞共榮圈確立上益々重要性ヲ加ヘ來レル南方拓務政策遂行ノ完備ヲ期スルノ要亦愈々緊切ナルモノアリ到底現機構ノ整備ノ推移ヲ許ササル状態ニ立到リタルヲ以テ今般拓務局管掌專務中主トシテ滿洲開拓民關係專務ヲ專管セシムル爲拓北局ヲ新設スルト共ニ拓務局ハ之ヲ拓南局ト改メ之ガ機構ノ改組擴充ニ關リ以テ時局ノ變遷ニ即應セントス尙之ニ伴ヒ移植民專務ニシテ拓北局所管以外ノ



モ、ハ主トシテ南米及南洋諸地方ニ對スル移殖民事務ナルヲ以テ之ガ事務ハ舉ゲテ拓南局ニ屬セシメ管理局ニ於テハ所掌セシメザルコトトシ又關係各處トノ連絡ヲ密ニシ南方拓殖政策遂行ノ完備ヲ期スル爲拓南局參與ハ之ヲ拓南局參與トシテ之ヲ存置セントス其ノ他殖産局所管事務ノ一部ヲ管理局ニ移管スルノ外若干職員ノ増減ヲ行フノ邊アルニ依リ拓南局官制中改正ヲ爲サントス今之ヲ分説スレバ次ノ如シ

一 拓北局ノ新設及之ニ伴フ職員増置

局長	一人
書記官	二人
事務官	一人
職員	十一人
技手	六人
増	

滿洲開拓ハ日滿兩國ノ一體的重要國策トシテ新東亞建設ノ根基ヲ培養確立スルヲ目途トシ之ガ遂行ハ日滿兩國ノ國防上、經濟上刻下喫緊ノ要務タリ特ニ日本内地人開拓農民ヲ中核トスル日滿不可分關係ノ鞏化、民族協和ノ達成竝ニ國防力ノ増強ハ時局ノ推移ニ伴ヒ一層緊要ノ度ヲ累加シ來レリ

昭和七年試驗移民ノ送出ニ始ル滿洲開拓民事業ハ昭和十二年度以降五箇年間十萬戸送出ノ豫定ヲ以テ既ニ其ノ實行ニ著手シ更ニ昭和十三年度ヨリハ新ニ青年義勇隊ノ送出ヲ開始シ著々實施中ニシテ昭和十五年度ニ於テハ集團開拓民一萬戸、集合開拓民三千戸、分散開拓民五百戸、商工鑛其ノ他開拓民七百戸竝ニ青年義勇隊一萬二千人ヲ送出スル計畫ナリ

滿洲國ニ於テハ既ニ興農部ノ外局トシテ開拓總局ヲ設置スルト共

二 地方開拓行政機構ノ整備擴充ヲ行ヒ之ガ對策ニ當金ヲ期シツツ  
 アルガ我國ニ於テモ本事業ノ進展ニ對應シ拓務省ニ於ケル開拓行  
 政機構ヲ擴充整備シ以テ本事業ノ統制アル發展並ニ圓滑ナル實施  
 ニ遺憾ナキヲ期スルノ要アリ蓋シ一般開拓民竝ニ青年義勇隊送出  
 數ノ増加ニ伴ヒ之ガ宣傳、募集、訓練、送出、助成、保護等ノ事  
 業ヲ始メトシ指導員ノ養成、開拓適地ノ調査、滿洲拓植公社ノ監  
 督、中央地方ヲ通ズル移殖民團體ノ指導監督等諸般ノ行政事務著  
 シク激增セルハ勿論開拓地ノ農地制度、行政經濟機構、醫療衛生  
 其ノ他ノ厚生施設、共濟制度、開拓民金融體系ノ調整、滿洲拓植  
 公社ノ改組、滿鮮拓植株式會社ノ統合等關係、以テ全般ニ亘リ今  
 後ノ調査考究ニ俟ツモノ甚ダ多キヲ豫想セラルルト共ニ之ガ運營  
 ニ付テハ萬金ヲ期スルノ要アリ

仍テ今般拓務局ヨリ主トシテ滿洲開拓民關係事務ヲ所管セル組織  
 東亞第一、東亞第二、三課ヲ分離スルト共ニ之ガ改組擴充ヲ爲シ  
 總務、開拓、青年、輔導ノ四課ヲ以テ構成スル拓北局ヲ新設シ同  
 局ニ局長ノ外書記官二人、事務官一人、屬十一人及技手六人ヲ增  
 員セントス尙新設ノ拓北局ニ於テハ主トシテ滿洲開拓民關係事務  
 ヲ掌ルモノトスルモ石ノ外北支、蒙疆等ニ於ケル移殖民事務モ同  
 局ノ所管トシテ指定ノ豫定ナリ

二 拓南局ノ整備充實ノ爲ノ職員增置

事務官	一人
技師	二人
技手	五人
增	三人

外南洋及中南米方面ニ於ケル移植民及拓殖事業ニ對シテハ從來ヨリ之ガ保護助長ニ關シ種々施策ヲ講ジ來レル處今次事變ヲ契機トスル東亞ニ於ケル新情勢ノ推移ニ伴ヒ我ガ國民ノ海外殊ニ南支、南洋方面ニ對スル發展ハ更ニ國防上、經濟上一層其ノ重要性ヲ加アルニ至レリ就中我國及支那大陸ト一衣帶水ノ間ニ在ル外南洋地方ハ事變處理上密接ナル關係ヲ有スル華僑ノ在住六百萬人ヲ超エ本邦必需重要資源ノ供給地トシテ我國生産力擴充計畫ノ遂行上不可缺ノ地域ナルハ勿論他方我ガ商品ノ輸出市場トシテ國際貸借改善上亦重視スベキ地域ヨリ殊ニ歐州戰局今後ノ推移ト事變處理ノ進展トニ鑑ミルトキハ對南方拓殖政策ノ確立及之ガ遂行ハ刻下喫緊ノ急務ニシテ今後益々同方面ニ邦人ノ經濟的進出ヲ促進シ權益

ノ確保ヲ圖ルノ要アルモノト謂ハザルベカラズ

今次事變ノ進展ニ伴フ諸般ノ情勢ハ又南支方面ニ對スル施策ヲモ必要トスルニ至レリ蓋シ氣候、風土其ノ他各般ノ條件外南洋ト酷似セル南支那方面皇軍占據地域ニハ本邦ヨリ多數ノ農業、半農半漁、漁業等ノ各種移民ヲ送出シ得ル地域相當存在スル見込ニシテ右地方ニ可及的速ニ優秀ナル本邦人ノ送出ヲ圖ルハ彼地產業ノ急速ナル開發ニ貢獻スルハ勿論現地支那人ノ輔導トモソリ延テハ治安ノ確立ニモ資シ得ベシ當省ニ於テハ既ニ右地方ニ對シ移民送出ノ一部ヲ實施シタルガ更ニ今後陸海軍、興亞院其ノ他關係方面ト緊密ナル連絡ノ下ニ移住適地ノ調査ヲ完成シ可及的速ニ多量ノ本邦人移住ノ實現ヲ期シ居ル次第ナリ

蓋シ外南洋、南支那等南方ニ對シ強力且適切ナル發展方策ヲ實施スル爲ニハ當管ノ擔當スル移植民及拓殖事業ノ分野ニ於テ積極的指導獎勵ヲ與フルノ必要アルハ勿論ナルモ之ガ爲ニハ中央ニ在リテハ外務、陸海軍、其ノ他關係方面ト緊密ナル連絡ヲ保持シツツ現地ニ在リテハ臺灣及南洋群島等外地ノ有スル據點的地位ヲ最大限ニ活用スルト共ニ國策會社タル臺灣拓殖及南洋拓殖兩株式會社ハ固ヨリ其ノ他各方面ノ當業者ヲモ動員シテ其ノ萬全ヲ期セザルベカラズ

然ルニ現在南洋及中南米方面ノ移植民及拓殖事業ハ拓務局内ノ南洋及南米ノ二課ヲ以テ之ガ關係事務ヲ處理シ來リタルモ現在ノ機構ヲ以テシテハ到底所期ノ目的達成ニ支障ナキヲ保シ難キヲ以テ

滿洲開拓民關係事務專管局トシテ拓北局ノ新設セララルルニ對應シ之ガ機構ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ拓務局ヲ拓南局ト改メ其ノ下ニ南洋第一課、南洋第二課及南米課ノ三課ヲ置キ之ガ爲事務官一人、技師二人、屬五人及技手三人ヲ増員シテ專ラ南支、南洋、中南米方面ノ移植民及拓殖事業ヲ管掌セシメントス尙拓北局所管トシテ指定セララルル地域以外ノ移植民事務ハ南支、南洋、中南米ハ固ヨリ其ノ他ノ地域ニ付テモ一應拓南局所管トシテ之ヲ管掌セシメントス

### 三 管理局所管事務ノ一部ヲ拓北局ニ移管ノ件

管理局ニ於テハ官制上拓務大臣ノ定ムル地域ニ於ケル移植民ノ保護指導ニ關スル事務ヲ掌ルコトトセラレ右ノ地域トシテハ當初滿

洲、蒙古、支那及西比利亞ヲ豫定シ主トシテ滿洲開拓民ニ關スル  
事務ヲ管掌シ來リタルガ滿洲開拓民關係ノ事務ハ移植民事務ノ統  
轄ヲ圖ル爲昭和十年四月ヨリ舉ゲテ拓務局ニ移管セラレ今日ニ至  
レリ從テ管理局ニ於テハ官制ノ明文存スルニ拘ラズ移植民事務ノ  
實體ナク唯觀念上ノ存在トナレリ今般拓北局ヲ新設シ主トシテ滿  
洲開拓民關係事務ヲ專管セシムルコトナリタルニ伴ヒ移植民事  
務ニシテ拓北局所管以外ノモノハ主トシテ南米及南洋諸地方ニ對  
スル移植民事務ナルヲ以テ此等事務ハ舉ゲテ拓南局ニ屬セシメ管  
理局ニ於テハ所掌セシメサルコトトセリ之ガ爲第五條ノ改正ヲ必  
要トス

#### 四 拓南局參與設置ノ件

拓南局ノ主管ニ屬スル移植民及海外拓殖事業ノ指導獎勵ニ關スル  
事務ハ外交、貿易、爲替、海運、國防、國內必需物資ノ充足、物  
動計畫ノ遂行等ノ關係ニ於テ企畫院、外務、大藏、陸軍、海軍、  
農林、商工、遞信等各廳所管事務ト關聯スル所極メテ多ク從テ之  
ガ事務處理ノ圓滑ヲ期スル上ニハ此等關係各廳トノ間ニ常時緊密  
ナル連繫ヲ保ツノ要アリ殊ニ歐洲戰局ノ進展ニ伴ヒ南方ニ於ケル  
國際情勢ハ愈々緊迫シ此等ノ諸情勢ニ對處シテ南方拓殖政策ノ遂  
行ニ遺憾ナキヲ期スルガ爲ニハ關係各廳トノ事務上ノ連繫ヲ密ニ  
シ機宜ノ措置ヲ講ズルノ要アルハ言ヲ俟タサル所ナリ即チ移植  
民ノ送出ニ付テハ移住國トノ外交關係ニ付外務省トノ間ニ十分ナ  
ル連絡ヲ圖ルヲ要シ海外拓殖事業ノ指導獎勵ノ分野ニ於テハ國內

必需重要物資ノ充足、物動計畫ノ遂行、海外邦人企業ノ進出、企業者ニ對スル資金ノ供給並ニ資材ノ配給、物資ノ輸出入等ニ付企業院、大藏、陸軍、海軍、商工、農林、遞信各廳トノ間ニ緊密ナル連繫ヲ保持シツツ現時局下移植民海外拓殖行政ノ運用上過誤ナキヲ期スルノ要アルヲ以テ現行拓務局參與ハ拓務局ノ解體ニ伴ヒ之ヲ拓南局參與トシテ各廳トノ事務連絡上遺憾ナキヲ期セントス

#### 五 殖産局所管事務ノ一部ヲ管理局ニ移管ノ件

外地ノ租税、專賣關係事務ハ從來殖産局ニ於テ管掌シ來レルモ租税及專賣收入ハ管理局所管ノ外地各特別會計豫算關係事務ノ重要ナル部分ヲ爲シ居ルヲ以テ租税及專賣ガ豫算ト併セ大藏省ノ所管タルニモ鑑ミ之ガ事務ヲ管理局ニ移管シ以テ外地財政事務ノ統

轄ヲ圖リ事務處理ノ圓滑ヲ期セントス之ガ爲第六條第一號中改正ヲ必要トス

#### 六 其ノ他職員ノ増減員

(1) 會計事務増加ノ爲ノ職員増置

屬 二人増

今般當省ニ拓北局ノ新設セララルヲ始メトシ其ノ他各局ニ於テモ拓務行政ノ運営上諸般ノ施設亦多キヲ加フルニ至レルヲ以テ之ガ爲一般會計ニ關スル事務ノ激増ヲ見ルコト必至ナルハ勿論時局下戰時經濟態勢ノ鞏化ニ伴ヒ財務行政ニ關スル事務就中物資關係、海外拂節約關係、勞務關係等ノ事務ハ複雑多岐ニ亘リ到底現在ノ職員ヲ以テシテハ之ガ圓滑ナル處理ヲ期シ難キヲ以

會計事務充實 (經常部)	拓務局機構充實 (經常部)	東亞開拓民事務 遂行ニ關スル機 構整備 (經常部)	事項	豫算計上人員	官制請議増減
屬 二	技手 四 技師 七 事務官 二	技手 六 屬 一 技師 一	局長 一 書記官 二 事務官 三 (内勅一)		屬二、技手一減  事務官二(内勅一)、技師一、屬一減

昭和十五年度官吏増員内譯

(豫算九ヶ月)

テ官房會計課ニ屬二人ヲ増員シ存ノ事態ニ對處セントス  
賞與科目設置ニ伴フ經費節減ノ爲ノ減員

屬 二人  
技手 三人  
通譯生 二人  
減

賞與科目設置ニ伴フ經費節減ノ爲屬二人、技手三人及通譯生二人ヲ減員スルノ要アル處屬二人ハ管理局司計課、拓務局東亞第一課ヨリ各一人ヲ、技手三人ハ殖産局農林課及同理財課、拓務局南米課ヨリ各一人ヲ、通譯生二人ハ南米課ヨリ二人ヲ夫々減員セントス

外地米穀統制 (臨時部)	物産需給調整 (臨時部)	交通電力動員 (臨時部)	勞務需給調整 (臨時部)	石炭増産対策 (臨時部)
理事官 一 二	書記官 一	事務官 一 二	事務官 一 二	事務官 一 一
		事務官一減	事務官一減	

移殖民及拓殖事業臨時調査 (臨時部)	滿洲開拓民指導監督 (臨時部)	滿洲開拓地調査 (臨時部)	棉花及羊毛資源開發 (臨時部)
事務官 一 技師 一 屬 二	書記官 一 事務官 三 技師 二 屬 一 技手 五	技師 二 技手 一 〇	技師 一 技手 一 一
事務官一、屬二減	勅任ト爲スコトヲ得ル事務官一ヲ奏任ニ改メ事務官一ヲ理事官一ニ振替へ屬一、技手一減	技師一、技手三減	屬一減



管理局長、殖産局長、拓務局長及東亞開拓局長ノ俸給 人年俸四千六百五拾圓但シ内東亞開

第五節	局長	一七四三七
第四節	參與官	四六五〇
第三節	次官	五八〇〇
第二節	政務次官	五八〇〇
第一節	大臣	六八〇〇

目	比較ノ差	
	増	減
第十五年度要求額	四三九七四	〇
第十四年度豫算額	三七〇〇〇	六九七四

第一項 俸給

第一款 拓務本省

昭和十五年年度拓務省所管歳出經常部抄

九四三、二四四圓

右表ノ外拓殖調查部ノ既定職員タル書記官一ヲ減ジ書記官一ヲ  
事務官一ニ振替フ

(備考)

合 計				
局長	書記官	事務官	技師	屬手
一	四	一	九	一
		(内勅二)		
減員	事務官	技師	屬手	右ノ外 事務官一ニ振替フ
五	二	七	五	ト爲スコトヲ得ル 改メ事務官一ヲ理
	(内勅一)			

拓局長ノ俸給ハ九箇月分

第六節 事務官

三四八七

十九人ノ内一人ノ俸給年俸四千六百五拾圓但シ九箇月分

第二目 奏任俸給

一五三九八〇

一三五三四〇

一七六四〇

〇

第一節 秘書官

三、一二〇

一人ノ俸給

第二節 書記官

四八、三六〇

十六人ノ俸給一人平均年俸參千百貳拾圓但シ内二人ハ九箇月分

第三節 事務官

四九、六八〇

十九人ノ内十八人ノ俸給一人平均年俸貳千八百八拾圓但シ内三人ハ九箇月分

第四節 庶務官

一、四〇〇

五人ノ俸給一人平均年俸貳千貳百八拾圓

第五節 通譯官

五、一四〇

二人ノ俸給一人平均年俸貳千五百七拾圓

第六節 技師

三五、二八〇

十三人ノ俸給一人平均年俸貳千八百八拾圓但シ内三人ハ九箇月分

第三目 判任俸給

一三七、一六〇

一二、一五五

一六〇〇五

〇

第一節 屬

九五、二九八

百二人ノ俸給一人平均年額九百八拾五圓但シ内二十一人ハ九箇月分

第二節 通譯生

九八、五〇

十人ノ俸給一人平均年額九百八拾五圓

第三節 技手

三三、〇一二

三十五人ノ俸給一人平均年額九百八拾五圓但シ内十人ハ九箇月分

昭和十五年十一月六日會議議案

秘

昭和十五年十一月六日 決議  
昭和十五年十一月十三日 公布  
勅令第 七六二 號

昭和十四年勅令第五百六號臨時拓務省ニ拓殖  
調査部ヲ設置スルノ件廢止ノ件  
参照添附